

令和6年度 札幌市エイズ対策推進協議会 議事録

日時 令和7年2月20日(木)18:30～19:40

場所 WEST19 2階大会議室

① 開会の辞 (古澤結核・感染症医事担当課長)	定刻となりましたので、これより令和6年度札幌市エイズ対策推進協議会を開催いたします。 私は、本日の進行を務めさせていただきます、保健所感染症総合対策課結核・感染症医事担当課長の古澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の会議は1時間程度を予定しております。エイズ対策推進協議会の規則に基づき委員の過半数の出席となりますので、開催要件を満たしているところとなります。 先に配付資料の確認をさせていただきます。お手元にお配りしております、別紙1から別紙10まで皆様お手元にお揃いでしょうか。ご確認いただきまして、もし不足がある場合にはですね、こちらにお申し出いただければと思います。 では次に開会の挨拶に移らせていただきたいと思います。札幌市保健福祉局保健所長の山口よりご挨拶申し上げます。
② 開会挨拶 (山口保健所長)	皆さんこんばんは。札幌市保健所長の山口亮でございます。 本日は時節柄大変お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。令和6年度札幌市エイズ対策推進協議会の開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。 札幌市エイズ対策推進協議会につきましては、札幌市におけるエイズの感染の予防、及びまん延防止について多方面の委員の皆様にご参加をお願いしておりまして、ご審議をいただく場となっております。今回は新たにお二人の方を委員としてお迎えをしているところでございます。本協議会の趣旨をご理解いただき、快く委員をお引き受けいただいたことに厚く御礼を申し上げます。 札幌市といたしましては、HIV 感染陽性者の治療と予防が適切に受けられ、人権が尊重されるよりよい社会になるよう努めていきたいと考えてございます。そのために必要な市民向けの情報提供、検査相談体制の充実を図っていきたく思っております。本日の会議には、委員の皆様方からそれぞれのお立場からの忌憚のないご意見、ご提言を賜りたく思っております。 またこの場をお借りいたしまして、昨年11月に発生いたしました平日エイズ検査におけます梅毒検査の誤告知、誤った告知についてご報告をいたしたいと思っております。 札幌市西保健センターで昨年11月1日金曜日に実施した梅毒検査におきまして、受験者3名のうち1名に対しまして、正しくは梅毒陽性のところを誤って陰性と告知した事案でございます。 翌月12月に梅毒陽性を陰性と誤って告知したことが判明し、皆さんも御存知のことと思っておりますけれども、12月6日金曜日にこのこと

	を報道発表し、その後札幌市公式ホームページ、それから札幌市公式 X を通じて、お心当たりのある方は、西保健センターまでご連絡をいただきますよう呼びかけていたところでございます。 12 月 23 日月曜日に西保健センターにご本人と思われる方から電話連絡がありました。匿名検査でありますのでどなたかっていうことがわからないんですけれども心当たりがある方ということでお電話を受けたところでございます。 この度の本市の対応についてお詫びを申し上げました。その際に、西保健センターから紹介状発行はしてございませんが、ご本人様から直接医療機関へ受診されるご意向を確認したところでございます。 この再発防止策といたしましては検査機関から検査結果を受理した際のチェック体制や、結果説明前日の準備時の検査結果の再確認の体制の整備、それから受験者へ結果説明する際に、検査結果通知書をご本人に提示するなどを講じているところでございます。 今後このようなことが起こらないように再発防止に努めてまいります。検査を受けられた方々、関係者の方々にお詫び申し上げますとともに検査の信頼を損なう結果となってしまいました。大変申し訳ございませんでした。 結びになりますけれども本日の協議会が実り多いものになりますようお願いいたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。 本日はどうぞよろしくお願いいたします。
③ 出席者紹介 (古澤結核・感染症医事担当課長)	それでは議事に入ります前に別紙 2 委員名簿の確認をお願いいたします。委員の皆様の任期は 2 年間でございます。恐れ入りますが、初めて顔を合わせる方もいらっしゃいますので皆様より自己紹介をお願いしたいと存じます。 それでは職員名簿順に天野委員から自己紹介をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。
(天野委員)	札幌市医師会で医療管理担当理事をしております天野でございます。よろしくお願いいたします。
(池田詩子委員)	宮の森レディースクリニックで院長をしております池田と申します。PrEP などで HIV の予防に努めております。
(上埜医院)	札幌市医師会から参りました上野と申します。よろしくお願いいたします。
(笠間委員)	札幌市 PTA 協議会より参りました笠間と申します。小学校、中学校の父母、あるいは学校の先生ということになりますので、縁があるのかないのかわからないところですが何卒よろしくお願いいたします。

(坂本委員)	社会福祉法人はばたき福祉事業団の専門家相談員の坂本です。はばたきは、薬害 HIV 感染被害者の支援団体で、サークルさっぽろという検査場を運営しています。よろしくお願いいたします。
(佐藤委員)	北海道新聞のですね、ちょうど中心あたりに毎日 2 枚載っていますくらし面というところを作ってます、くらし報道部長の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。
(武野委員)	一般社団法人札幌青年会議所で副理事長をさせていただいております武野純一郎と申します。一般社団法人札幌青年会議所は 20 歳から 40 歳までの札幌市内の主に企業経営者を対象にした会ではありますので、そういった方たちにもいろいろ啓発できるように頑張りたいと思います。今日はよろしくお願いいたします。
(谷口委員)	市立札幌新川高等学校の養護教諭谷口と申します。私は札幌市立高等学校 8 校と、特別支援学校 5 校から成る養護教諭連絡協議会の代表として参りました。どうぞよろしくお願いいたします。
(沼田委員)	NPO 法人レッドリボンさっぽろの沼田と申します。NPO の立場から今日は参加させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
(藤枝委員)	Air-G' FM 北海道の藤枝と申します。 昨年まで編成制作部というところに所属しておりました。主に番組を通じてこのエイズ対策何かできないかということでやらせていただいていたのですが、ちょっと人事異動で、RI コンテンツ部というところに異動しまして、デジタルコンテンツを主に手がけるところで、今回後ほど出てきますけどもバナーの掲載であったり動画の編集をしたり、ポッドキャストの作成をしたりといったようなところで今作業をしております。またこちらの方で皆さんのお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。
(堀口委員)	札幌医科大学の堀口です。大学病院では白血病とかリンパ腫の血液疾患の他に、HIV 診療に携わってます。よろしくお願いいたします。
(満島委員)	ブラストの副代表の満島と申します。ブラスト自体は HIV に関する啓発を行う団体なんですが、主に世界エイズデー札幌実行委員会という形でですね、LGBTQ に向けて HIV についての広い啓発を行う団体として活動させてもらっています。今日はよろしくお願いいたします。

(宮島委員)	札幌市立発寒中学校養護教諭の宮島と申します。私は幼稚園小学校中学校、札幌市立の学校の養護教諭で集まる養護教諭委員会の代表として参りました。どうぞよろしくお願いいたします。
(渡部委員)	北海道大学病院の HIV 診療支援センターと、医科外来がんセンターの看護師をしております渡部と申します。北大病院に通院している 400 名以上いる患者さんの療養支援と、道内の HIV の相談窓口として HIV 相談室で活動しております。よろしくお願いします。
(池田副会長)	医療法人社団池田内科の池田と申します。開業医の立場から HIV の対策について考え、これまでの経験を通して HIV/エイズの対策を推進していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。
(遠藤会長)	北海道大学病院で HIV 診療に携わっております、血液内科の遠藤です。本日はよろしくお願いします。
(佐々木副会長)	NTT 東日本札幌病院薬剤科の佐々木と申します。本日は一般社団法人札幌薬剤師会の理事の立場で本会議に参加しております。よろしくお願いします。
(古澤結核・感染症医事担当)	皆様ありがとうございました。それでは次に別紙 2 の裏面 2 ページ目の札幌市からの出席者について自己紹介をさせていただきます。
(西條医務・保健衛生担当局長)	はい、皆さんこんばんは。札幌市保健福祉部の医務・保健衛生担当局長を担当しております西條といいます。本日はどうかよろしくお願いします。
(前木感染症担当部長)	感染症担当部長の前木と申します。よろしくお願いいたします。
(畠山感染症総合対策課長)	保健所感染症総合対策課長の畠山でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
(伊達結核対策係長)	結核対策係長の伊達と申します。よろしくお願いいたします。
(大市保健師)	同じく結核対策係で保健師をしております大市と申します。よろしくお願いします。
(梅澤保健師)	同じく結核対策係保健師の梅澤と申します。よろしくお願いいたします。

(古澤結核・感染症医事担当課長)	本日、札幌市からのオブザーバー2名について、石川課長については遅参の予定となっております。三上課長については本日所要により欠席とさせていただきます。よろしくお願いします。 それではこれより議事の進行につきましては遠藤会長にお願いしたいと思います。遠藤会長、どうぞよろしくお願いします。
④ 議事進行 (遠藤会長)	よろしくお願いします。改めまして北海道大学病院の遠藤です。 この会は非常に色々な多くの職種の方が集まる非常に貴重な会だと思いますので、ぜひ皆さんお願いしたいと思います。 それでは皆様のご協力をいただきながら円滑に議事を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。
⑤ 報告事項説明 (伊達結核対策係長) ・報告事項1	それでは早速議事の方に行きたいと思いますが、本日の議事につきましては、会議次第の通り報告事項が2題と協議事項が1題でございます。終了予定時刻は19時半の予定となっておりますのでよろしくお願いします。 まず事務局の方から報告事項2題と、協議事項1題についてご説明いただきます。議題ごとにご質問等をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。
	はい。では座らせていただいたままで失礼いたします。事務局の結核対策係長の伊達でございます。 初めに札幌市のエイズ、梅毒の現状についてご説明いたします。お手元の資料の別紙3の方ご覧いただけますでしょうか。 まずⅠ-1 年次推移です。HIV 感染者、エイズ患者の届出状況です。届出件数の年次推移ですけれども、令和6年はHIV 感染者が19件、エイズ患者が4件の計23件でした。前年の34件からは11件減少となっております。届出に占めるエイズ患者の割合、いわゆるいきなりエイズの割合は、令和6年は17.4%となりまして、昨年の41.2%を下回っております。 次にⅠ-2 性別年次推移です。令和6年は男性が19件、女性が4件で、これまで同様、男性が多くを占めております。 次にⅠ-3、感染経路別年次推移です。グラフの水色の部分、同性間性的接触によるものが14件で全体の6割を占めております。 続きまして、Ⅰ-4 年齢階級別累計です。傾向としましては例年と変わりはありません。HIV 感染者は20代から40代に多く、エイズ患者は30代から40代に多くなっています。また、年代が上がるにつれて、エイズ患者の割合が多い状況というふうになっております。 次にⅠ-5、推定感染地域別年次推移です。こちらの方は日本国内が多い状況に変わりはありません。 続きまして、梅毒患者の届出状況について報告いたします。 Ⅱ-1 年次推移です。梅毒の届出件数は、令和6年の届け出は348件であって、過去最高であった令和5年の470件から減少しました。また令和6年は、先天梅毒は0件でした。

次に2番、性別年次推移です。令和6年は男性が182件、女性が166件で、ほぼ同数となっております。男女ともに令和5年から届け出数が減少しました。

次3番、感染経路別年次推移です。令和6年は男女ともに異性間性的接触が7割以上を占めております。

次4番、性別年齢階級別累計です。女性は20代から30代に多く、男性は20代から50代が多い状況となっております。

次5番、推定感染地域別年次推移です。日本国内が多い状況に変わりはありません。

6番です。HIV感染症合併の有無です。梅毒発生届が提出された方のうち、HIV感染症の検査実施割合は、令和6年は44%でした。令和元年から6年の累計のHIV感染症検査実施割合は33%でした。令和6年はHIV感染症を合併していた人は8件でした。

次に、札幌市のHIV相談検査状況について説明をいたします。

まずⅢ-1 HIV相談検査体制というところをご覧ください。まず相談検査の体制についてですが、相談は各区保健センターにエイズ専用相談電話を設けて対応している他、札幌市HIV検査相談センターであります、サークルさっぽろさんでも検査時に相談対応をいただいております。サークルさっぽろさんの運営につきましては、札幌市から社会福祉法人はばたき福祉事業団さんに委託をしております。

次に検査体制ですが、札幌市直営の検査といたしましては、平日日中、平日夜間、日曜日に実施をしております。この他、LGBT向けの検査も実施しております。日曜検査は、例年は年2回でしたが、令和6年度は新たに民間事業者へ委託し、3回追加実施をいたしました。

委託検査としては毎週土曜日にはばたき福祉事業団に委託し、サークルさっぽろでHIV検査を実施しております。

令和6年度までは直営検査においては、希望者にはHIV検査に付随して梅毒検査を実施しておりましたが、令和7年度からはサークルさっぽろにおいても希望者に対して、梅毒検査の付随実施を開始予定でございます。

続いてⅢ-2 年度別エイズ相談件数です。

令和6年度は1月までの集計ではありますが、相談件数は198件となります。

次に3番、年度別HIV検査件数です。

表の青色が平日検査、赤色が夜間検査、黄緑が休日検査、オレンジ色が土曜日のサークルさっぽろの検査となっております。

右上の表はコロナ前の令和元年度と昨年度の1月末の件数を比較したものになります。令和6年度は1月時点で令和5年度同時期の件数を上回っており、特に夜間検査と休日検査の件数が大きく上回っております。

なお陽性者数につきましては、令和6年度は直営検査で7名と土曜検査で2名、計9名でした。

続いて、平成30年度から開始しました、梅毒検査の状況についてです。4の年度別梅毒検査件数のところをご覧くださいと思います。こちらは直営のHIV検査に付随して梅毒検査を実施した件数を表しています。

令和6年度は1月までの集計ですけれども、直営でHIV検査を受けた方1,113名のうちの94.6%となる、1,053名が梅毒検査も一緒に受けております。梅毒検査で陽性になった方は46名でした。このうち、医療機関への紹介状を発行した方は38名、そのうち医療機関から返書が届いた方は29名でした。

札幌市のエイズ、梅毒の現状についての報告は以上です。

次にⅢ－5の夜間休日エイズ検査のアンケート結果の方をご覧ください。令和5年4月から令和6年1月までの夜間エイズ検査と休日エイズ検査を受けた方のアンケート結果についてまとめたものです。年齢は20歳代から50歳代以上まで幅広く受けていただいております。検査を知ったきっかけは、札幌市などのホームページが最も多く、続いて広報さっぽろが多くなっています。昨年度から今年度の変化といたしましては、ホームページの割合が減少し、ポスターやSNSの割合が高くなりました。その他の回答としましては、病院から案内されてですとか、あとテレビ、レインボープライド、広告、電話といったようなことがありました。受験歴は初めての方が最も多いですが、昨年度から今年度にかけて初めての割合は減少し、2回目という方の割合が増加しました。

以上となります。

(遠藤会長)

ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、何かご質問はございますでしょうか。

(池田詩子委員)

もしわかれれば良いのですが、私のクリニックでは結構外国人の方がいらっしゃっていて、外国人の受検の割合とか人数とかもしわかったら教えていただきたいなと思ったんですけど。HIVの検査の話です。

(大市保健師)

後ろから失礼しますが、夜間休日検査においては、外国人の方がいらっしゃるっていうことはなかなかないかなというところで、12月1日の休日エイズ検査で、厚労省の研究班の方の協力を得まして、多言語通訳を用いた検査会というものを実施したんですがそこは5名の枠を取って、予約が2名、実際いらっしゃったのが1名という形です。平日検査においても年間を通して1人2人いらっしゃるかなというぐらいの割合になっています。

(遠藤会長)

やはりインバウンドの影響か、北大でもこの1年で外国人の初診がすごく多かった印象がありますが、サークルはどうでしょうか。

(坂本委員)

サークルさっぽろはもう10年開所してからやっているんで、外国人の口コミで広がっているっていうのはちょっとアンケートからわかっているんですけど、日本語がある程度わかる方はリピーターとして来てくださっている印象と、あと今遠藤先生がおっしゃったように、外国人の方がやっぱり定期的に来ているので、この冬、1

(遠藤会長)	月、12月からはほぼ毎週のように来ている状況があつて、通訳も使えるようにはなっているんですけど、日本語ができるから大丈夫という方と、通訳を使いたいという方で対応しているので、今直近で数をすぐお伝えはできませんが、増えている印象はあります。 今後はこういった外国人の対応というのは、非常に重要になってくるかなというふうに思います。
(池田博副会長)	その他何かございましたでしょうか。 詳しく教えていただきましてありがとうございます。 最後の夜間休日エイズ検査アンケート結果で、ポスターで検査を知ったきっかけが非常に増えてるんですけど、その前と比べてかなりポスターにインパクトがあるとか、何か理由があるのでしょうか。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	ご質問ありがとうございます。皆様の中でご覧になった方がいらっしゃるかどうか分らないですけども、今年度は、地下鉄の中吊り広告と、すすきの駅の改札を出たすぐのところに、こういったポスターを、これは中吊り広告の物なんですけども、すすきの駅改札を上がったすぐのところには、かなり壁面に大きく、このものを貼っているですとか、今年度はこちらのポスターを新しくしたというところはあるんですけども、実際にこのアンケートを取ったときに、このポスターをご覧になったのかどうかという調査をしてるわけではないのですが、一定の効果はあったのかなというふうに考えております。
(遠藤会長)	ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。
(満島委員)	はい貴重なデータをありがとうございます。 先ほどの池田先生の質問とかぶるかもしれないんですけども、このエイズ検査を知ったきっかけのその他も15%と非常に高くなっているような印象があります。その他の中には、どんなものが含まれるのかというところは少し気になる場所なんですけれどもぜひ教えていただけますと幸いです。
(大市保健師)	その他の内容としましては先ほど伊達の方から少しお話があったとおり医療機関からの紹介ですとか、あとは口コミっていうところもあったり、レインボープライドでNPO レッドリボンさんにご協力をいただいてレインボープライドでも広告、会場で直接広告していただいたり、ホームページに載せていただいたりっていうところが割合としては高かった印象ではありますね。
(遠藤会長)	他よろしいでしょうか。 続いて令和6年度札幌市エイズ予防対策実施状況について事務局の方から報告をお願いいたします。
⑥ 報告事項説明	はい。では、令和6年度の札幌市エイズ予防対策実施状況についてご報告いたします。

(伊達結核対策係長)

・報告事項 2

別紙 4 の方をご覧ください。今年度新たに行ったものにつきましては黄色いマーカーを引いております。

まず普及啓発事業ですが、市民全般を対象としたものと個別施策層を対象としたものを実施しております。

今年度は本協議会委員でもございます Air-G' の藤枝様や PTA 協議会の笠間様にも昨年度から引き続きご協力をいただき、広告の掲載や PTA 協議会での周知を実施させていただき、市民全般向けの普及啓発を実施いたしました。

その他先ほどもお話しましたが、札幌市市営地下鉄の車内中吊り広告や、すすきの駅の改札内の壁広告の掲載他、テレビ番組広報も新たに実施をいたしました。

また、昨年度に引き続き世界エイズデー札幌実行委員会へ委託し、ラジオ番組にご出演いただき、世界エイズデーに合わせて HIV について周知をしていただきました。

エイズ検査ポスターについては先ほどご覧いただいたものですが、情報を見やすくデザインを刷新いたしました。

若年層向け施策のうち、学生向けエイズ・性感染症出張講座はコロナ禍で中止をしておりましたが、今年度から再開をいたしました。こちらも世界エイズデー札幌実行委員会に委託しております。今年度は大学 3 校で実施しました。

MSM 向け施策では、LGBT 向けマッチングアプリに検査のバナー広告を掲載しました。実際バナー広告で検査を知ったとアンケートに記載されている方もいらっしゃいました。

医療機関との連携については、昨年度に引き続き札幌市医師会と共同し、HIV・梅毒に関する研修会を開催しました。今年度は、協議会副会長の池田博先生にご講演いただきました。その他医療機関での HIV 検査実施のご協力お願いのリーフレットを作成し、札幌市にも同じ内容を掲載させていただきました。

次に相談検査事業等についてでございます。今年度は記載のとおり実施いたしました。④休日エイズ検査、⑤LGBT 向け検査につきましては、定員 80 名を 96 名に増やして実施をしております。また先ほどお伝えしましたとおり、今年度は④休日エイズ検査に追加して、⑥臨時的休日エイズ検査を実施しました。令和 6 年度の札幌市エイズ予防対策実施状況の報告報告につきましては以上でございます。

(遠藤会長)

ありがとうございました。

記載の黄色いマーカーの部分が新規で行ったものということで、かなり多くの活動を行っているということになりますが、先ほどもありましたけど、有効性としてポスターを見て検査をするという方がかなり増えていたようですので一定の効果が得られたんじゃないかなという印象を受けました。

ただいまの説明につきましてご質問はございますでしょうか。

私から一つお伺いしたいんですけども、普及啓発事業の若年層向けのところで黄色いマークがついてる学生向けエイズ・性感染症出

(古澤結核・感染症医事担当課長)	張講座の実施ということが新規ということだったんですけども、こちらの方、やられた方の、受けられた方の反応ですとか、どんな質問があったかとかそういうのって何か情報はございますでしょうか。 ご質問ありがとうございます。 こちらの出張講座については、終了後に学生さんに対してアンケートを実施していただいております、その中では非常に勉強になったといいますか、今まで知らなかったことを学ぶことができた、ですとかそういった好意的なご意見が多数出てきているというところになります。
(遠藤会長)	その他、いかがでしょうか。
(坂本委員)	今札幌市から報告いただいたように、サークルさっぽろでも4月から梅毒検査を実施するというところで、個別施策層の普及啓発事業で最後の性風俗事業者というところで、リーフレットとポスターの送付ってあるんですけど、何かこういう方たちにサークルでも梅毒検査をやっているっていうことを伝えたいなと思って。 でもどういう術があるのかちょっと私達もわからなかったのも、もしご協力いただければ一緒にご紹介いただければと思います。
(遠藤会長)	ぜひいろいろなところで協力し合ってお願いしたいところですけども、何か一言ありますか。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	ありがとうございます。性風俗産業の方だけではないんですけども、「How to safer sex」という小型のリーフレットを母子保健の方と協力して作成しておりますので、そちらについて性風俗産業ですとか、あとは思春期の方ですとか、性感染症全体の予防、コンドーム着用ですとか、あとは各性感染症の発生状況等についてコンパクトにまとめたものを配布させていただいてる状況になります。
(遠藤会長)	こちらの方には、どこで検査を受けられるというような記載とかは。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	はい、札幌市における検査体制、相談体制についても記載をさせていただいているところであります。
(遠藤会長)	サークルさっぽろで梅毒の検査もできるということも含めて記載があるということでしょうか。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	新年度からそのような形で掲載をさせていただきます。
(遠藤会長)	よろしく申し上げます。その他、はい、どうぞ。

(佐藤委員)	若者の、その情報を得る手段といえばやっぱり SNS だと思うんですよね。前のページのアンケート結果では、SNS で 5 %ということですけど SNS での取り組みってのは特にやってないんでしょうか。
(古澤結核)	札幌市の方では公式の LINE と公式 X の方でお知らせをさせていただいているところですけども、アンケート上の SNS というところが、直接的に札幌市が発信したものをご覧になっていただいているのか、もしくはインフルエンサーと呼ばれるような方々のものを間接的に見ているのかどうかというのがわからないですけども、札幌市としては公式のアカウントからの配信というところを、検査のタイミングですとか、そういったところでさせていただいています。
(遠藤会長)	ありがとうございます。他よろしいでしょうか。
(満島委員)	先ほどの佐藤委員の質問とかぶるかもしれないんですけども、今年度実施した取り組みの中に LGBTQ 向けのマッチングアプリのお話が出てきていたと思います。SNS というようなアンケート取りで行うと、マッチングアプリも含めて回答しているのか、それとも SNS、X やインスタグラムなど、純粹というか何というか、そういう投稿を前提としたものを想定しているのか、どこら辺までが SNS で回答されているというふうに考えたらいいでしょうか。もしわかれればお願いいたします。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	ありがとうございます。ご質問のとおりでアンケート上はこの大枠として SNS という評価をしているものですから、実際に何を見ているかですとか、そういったところまでは残念ながらわからないというところになりますので、今後の対策に役立てるためにも、アンケートをより細かくですとか、そういったところも必要ではないかな、そういうふうな集計の仕方もある必要ではないかと考えております。
(満島委員)	ありがとうございます。
(遠藤会長)	それから複数回答可なんでしょうかね。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	複数回答可になっております。
(遠藤会長)	はい、それでは沼田さん。
(沼田委員)	レッドリボンさっぽろの沼田です。まず一つ、今満島さんがおっしゃったことに関することと少し近いと思いますが、LGBT 向けマッチングアプリの検査広告バナーの件に関してはアンケートでアプリのバナーというのは別枠でつけていない感じですか。
(大市保健師)	LGBT 向けの検査会のときだけ別途アンケートを用意して、何を見たかっていうのは集計しているんですが、ごめんなさい、今回配布

(沼田委員)	させていただいた中には、それは反映されていなくて、年間を通して共通のアンケート用紙でとったものになっています。 LGBT 向けの検査会に関してはマッチングアプリで見たか他の SNS 見たかっていうのは一応わかるようにはなっているということ間違いないですか。
(大市保健師)	はい。
(沼田委員)	ありがとうございます。 あと今レッドリボンさっぽろでも性風俗従事者向けに何か啓発活動ができないかというところで、全国で性風俗従事者向けに活動をしている団体さんと繋がりがあるので、何か資料提供とかをさせてもらえないかというところを相談していこうという話になっています。ただ、郵送先をどうしたらいいかなっていうところで迷っていて、ゲリラで送ろうかみたいな話とかも上がっているところです。もし保健所さんでそういう何か定期的に送っているというところがあれば、一度相談させていただいて、みんなでまとめて広報ができればより良いのかなとも思いましたので、ご検討いただければと思います。
(遠藤会長)	よろしいでしょうか。それでは続きまして令和7年度の札幌市エイズ予防対策実施計画について、事務局の方からご説明お願いいたします。
⑦ 協議事項説明 (伊達結核対策係長)	はい。ご説明いたします。別紙5の方をご覧ください。 令和7年度につきましても、世界エイズデー札幌実行委員会やレッドリボンさっぽろさんと共同して普及啓発を行っていききたいというふうに思っております。 契約が関係することですので、具体的な計画は4月以降に検討ということになります。また委員の皆様からの貴重なご意見やご協力を得ながら、普及啓発を行っていききたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 検査事業につきましては先ほどお伝えさせていただきましたとおり、サークルさっぽろにおいて、土曜検査においても新たに梅毒付随検査を開始いたします。 エイズ対策活動支援業務につきましては、事業内容を変更して、エイズの発生予防およびまん延防止に係る活動を行う NGO などに対して、区民センターなどの有料会議室を借りて活動を行う際の会場費を助成する事業として新たにスタートする予定です。 簡単ではございますが、令和7年度の札幌市のエイズ予防対策実施計画案につきまして事務局からの説明は以上でございます。
(遠藤会長)	ありがとうございます。 こちらは令和6年度と比べますと、少なくとも見えますけど詳細は4月以降ということで。ただ今の説明につきましてご質問ご意見等はいかがでしょうか。

(満島委員)	はい、ありがとうございます。これからまたいろいろ詳細が決まっていくような内容になっているのかなというふうに思うんですけども、普及啓発事業の中に、二番のイベントでのリーフレット、カードなどの配布などというふうに書かれておりますけれども、こちらについてはどれぐらいの規模ですとか、どういう内容を想定してるとか、現時点でわかることがあれば教えていただきたいなと思います。というのが去年なんですけれども、今年の実績の方にも書いてあった時計台、あと資料館のライトアップの折に参加させていただいたわけなんですけど、ライトアップをするだけではなくライトアップしている状態で何か、例えば、時計台は中が使えるので啓発イベントを行うであるとか、そういった市民への直接的な働きかけが何かできるような仕組みがあればもっと啓発に繋がるのにねというような話をちょっと世界エイズデー札幌実行委員会の方でやっていたもんですから、そうした拡大とかもぜひご検討いただきたいなというふうに思ってた質問でした。 もし差し支えなければ、どのような計画か教えていただきたいです。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	いつもありがとうございます。現時点では決定しているものはないところですけども、今いただいた貴重な意見参考にさせていただきたいというふうに思います。また、やはりいろいろな層に向けてということが重要かと考えておりますので、皆様のご意見をいただきながら、適切な方に届くイベントというところを考えていければなと感じております。よろしくお願いします。
(遠藤会長)	その他いかがでしょうか。
(池田博副会長)	サークルさっぽろで梅毒検査をやっていただけるのは本当にありがたくて、定員とか20人なんですけど今も比較的いっぱいなんじゃないかな。積極的にご紹介してしまっているのかどうか教えていただければ。
(坂本委員)	キャパ的にはやっぱり30分に4人から5人のところで回すので精いっぱいかなと思っていて、当初4人でやっていこうかなと思っていて、ただ予約枠というのはキャンセル率が2から3割ぐらいやっぱりあるもので、Webの予約なのでそこも見越して、開始当初4月からは20名の予約枠で開始していこうかなと思っています。 相談がどれぐらい来るのかっていうのがまだ読めていないところなのでそこもちょっと踏まえて対応していこうかなと思っています。
(池田博副会長)	今も結構いっぱいですか。
(坂本委員)	今は18から20ぐらいの枠で調整をしていて、ただ今15から18ぐらい入ってきたら12名とかっていうこともあるので、そこも見越

(池田博副会長)	してやっていくのかそこはちょっと読めないところではあるんですけど、ちょっと様子を見ながらとは思っています。 ありがとうございます。
(遠藤会長) (古澤結核・感染症医事担当課長)	はい、その他いかがでしょうか？ 今ご意見いただいたところに関連するんですけども、次年度からサークルさっぽろさんの方で梅毒検査をしていただけるということで、直営検査の参考という形になりますが、我々の方で梅毒検査を平成30年に開始したときと比較しまして、前後で比較すると、件数が約1.5倍に伸びたというところがありまして、おそらくこの今の流行で皆さんの関心が梅毒にあるということで、札幌市の場合は梅毒検査をエイズ検査の付随検査としてやっておりますので、それによりまして梅毒検査を受けたいというニーズもありエイズ検査も伸びているというような側面がありますので、それを考えますとサークルさっぽろさんの方でも、それとともに件数の伸びというところが、期待できるのではないかなと考えているところです。
(遠藤会長) (沼田委員)	ありがとうございます。他にご質問はございますでしょうか。 レッドリボンさっぽろの沼田です。 質問ではないですが、普及啓発事業でイベントでのリーフレットやカードの配布で啓発するとありますが、私達レッドリボンさっぽろでも色々とアウトリーチ活動として大学祭やレインボープライド等でブースを出したりとかしています。そこでも札幌市さんが作成している「How to safer sex」ですとか、世界エイズデー札幌実行委員会が作成した、レッドリボンスタディのYouTube動画の広報カードとかを配布させていただいております、やっぱり満島さんの映っているカードは皆さん持って行ってくださってご本人に配っていただきたいなって思うときがあるくらいです。広報効果というか啓発資材の配布は私達NPOでもできることとして活動させていただいておりますので、ご報告させていただきます。
(遠藤会長) (谷口委員)	ありがとうございました。他ご質問等はございますでしょうか。 若年層向けの施策普及啓発事業の中で、このアンケート結果からポスターが有効だったと。過去学校で検査を知ったきっかけというのが0%であり、各高校の方でも卒業前に相談機関のお知らせをするプリントを作成し、卒業式に向かって配布もしているのですが、なかなかこういうところに結果が出てないようです。 それでそのポスターですけれども、高校の方にもお渡しいただければ掲示できて少しは生徒に知らせる方向になるのかなと思います。高校で言うと就職をし、進学しない生徒もおりますので、そこでもう、こちらの対策、いろんなことをしておりますけれども、専門学校とか大学とかそういったところにも引っかからない子っていうのがたくさんおりますので、できれば高校にもそういったポスターを配布していただけたらなと思います。

(古澤結核・感染症医事担当課長)	ありがとうございます。ぜひそういった若い世代の方にも届くようなことをさせていただきたいというふうに考えております。先ほどお話が出ておりましたけれども、満島さんに質問していただいた、YouTube はやはり若い世代の方は YouTube 世代ですので、そういったテレビですとか新聞よりもそういった YouTube とか SNS とかそういったところが届きやすいのかなと思いますので、ぜひ満島さんのカードですとか、先ほどご紹介したあのポスターを、小さいカードタイプで今年作っておりますのでそれを広く配架もしくは配布したいと考えておりますので、ご活用いただければと思います。
(遠藤会長)	ありがとうございます。他ご質問よろしかったでしょうか。お願いします。
(満島委員)	ちょっとたくさん名前が出て非常に恐縮なわけですが、カードもぜひ沼田さんから言っていただければ配りたいというふうに思っております。YouTube にもたくさんリーチしてくれる層がいるのであれば普通に嬉しいなと思っておりました。店にあったカードはほぼ配りつくしました。 それはちょっと置いといてなんですけど、今ちょっと YouTube のお話も出たんで、またエイズ検査アンケート結果とちょっと繋がって質問というか提案というところなんですけれども、ポスターだけでなくやはり SNS の効果というのも非常に高くなっているのではないかなというふうに思います。大阪府か市かどちらか忘れてしまったんですが、HIV と梅毒に関する専門のインスタグラムアカウントを作って運用しているような自治体も近年見られるようになってきたので、そうした運用なども一種、目算に入れながらあのポスターなどの若年層へのリーチっていうのと合わせていくことがすごく大事なのかなというふうに勝手に思ったりしておりました。リール動画で梅毒に関する検査に行きましょうというのが個人に流れてきたりすることもあるので、影響力は大きいのかなというふうに感じていた次第です。
(遠藤会長)	はい、以上ですありがとうございます。 確かに大阪は都道府県の人口当たりの検査件数が飛びぬけて多いですね、全国的に見て。そういったいろんな方面での活動というのは札幌市でもぜひ取り組んでいただければというふうに思います。
(佐藤委員)	すいません。新年度も多分そのアンケートってまたおやりになると思うんですけど、ぜひマスメディアっていう項目を、ひょっとしたらすごく少なくてもその他に入ってるのかも知れませんが。というのは、エイズのこの委員に私になるということでうちの新聞でエイズってどんだけ出てるかなと思って調べてきたんですよ。2010 年までは毎年 100 件以上の記事が出てたんですけど、何か熱がうちも冷めてるのかどうか分かりませんが去年エイズっていう記事が 1 年で 11 本しかなくて、私去年の 4 月にうちの部長、くらし部長になったんですけど、確かにくらし面の頭記事とかでエイズの記事

	って見たことないなってすごく今反省しているところでございます。 令和6年度はテレビとラジオ、Air-G'さんとかも頑張っていたいてると思うんですけど、新聞はなかなか若者にリーチしませんが頑張ろうと思ってますんで、ぜひマスメディアという項目も聞いてもらったらなと思うんで、少し数字的に頑張りますんでよろしくをお願いします。
(遠藤会長)	はい、いろいろと調べていただきましてありがとうございます。ぜひそういったアンケートの方法も少し検討いただければというふうに思います。
(渡部委員)	他、よろしいでしょうか。 病院で患者さんの療養支援をしている立場から二点ほどあります。先ほど外国人の話が出たかと思うのですが、当院に今年初診で来た方の、全体の4分の1が外国人だったんですけれども、既に感染がわかっている方で転居されてこられる方とか、仕事に就かれてくる方でもあらかじめわかっている方もいるんですが、新規でわかる外国人の方が一定数おりますので、サークルさっぽろさんは外国人の検査が多いと言っていたんですけれども、外国の方が検査を受けやすい体制があると良いのかなと思ったのと、陽性がわかっている外国籍の方も受診にたどり着くのになすごく時間がかかっておりまして、道外のNPOを通じて連絡をいただいたりですとか、そういう形で初診に繋がってる状況があるので、外国人の陽性者に対する支援が広がっていったらいいのかなと思ったところが一点ありました。あとは患者さんが高齢化しておりまして、今は慢性疾患になっていきますので、いろんなところで地域の医療機関に受診する機会が増えていくのは変わらずある状況ですので、そういった地域の医療機関に我々も出張研修とかはしてますけれども知識のアップデートとかを進めていくということも、進めていけたらいいのかなというふうに思って二点ほどお願いします。
(遠藤会長)	札幌市さんから何かコメントありますでしょうか外国人や地域での啓発という点について。
(古澤結核・感染症医事担当課長)	ありがとうございます。一点目の外国人について、北大病院では外国人の受診も非常に多いということですね。たしかに外国の方は情報弱者と言いますか、なかなか情報が届かない部分がありますのでその部分については札幌市においても、啓発の方法をちょっと検討していきたいと考えております。 また患者の高齢化に伴いまして、いろいろな合併症をお持ちで、糖尿病ですとか高血圧ですとか誰もがかかるようなご病気をお持ちの方もいらっしゃるって、専門的な病院じゃない病院でもやはり見ていただきたいというところがございますので、一般の医療機関、医療従事者の方々の偏見解消、正しい知識を普及していくということは非常に大事というふうに考えております。それもありまして、昨年度、今年度と、札幌市医師会さんと共催でHIVと梅毒の講演会をさせていただいております。その中で、昨年度は遠藤先生、

(遠藤会長)	今年度は池田先生にご講義いただいて、基本的なところから、どういったところを考えていけば、対応していけばいいのかというところ、そして札幌市の方からは、今ご説明させていただいたような流行の状況ですとか、あとは性感染症を疑った場合にはぜひ HIV の検査をしていただきたいですとか、そういったところの医療機関へのアプローチというところも引き続き行っていきたいというふうに考えております。
(遠藤会長)	やはり実際診療してる一般医療機関での診療拒否っていうのは、未だにすごく多いっていうのが非常に問題かなというふうに思っておりますので、ぜひいろいろな方面からご検討いただきたいと思います。 他はいかがでしょうか？よろしいでしょうか。 それでは皆様にお諮りいたしますけども、この令和 7 年度札幌エイズ予防対策実施計画そして事務局の原案どおり承認ということでよろしかったでしょうか？拍手をお願いします。 (拍手) ありがとうございます。
⑧ 他質問・報告事項等 (遠藤会長)	他に全体としまして委員の皆様からご意見やご質問等はございませんでしょうか。
(坂本委員)	サークルさっぽろで相談を対応していて、今日ちょっと情報提供をと思って少しまとめてきたんですけども、外国の方が増えている、生活困窮っていうのも少しちょっと感じています。それと若年層、今年高校生 4 人の女の子から一気に予約を受けることができました。結局来てくれたのは二人だったんですけど、その検査を受けるときの気をつけることも伝えた上で予約を受けました。 自分の体を知るということはとても大事なことですけど、そういうところをやっぱ高校生のその卒業のところというふうにおっしゃってましたけど、もっと早い段階なのかなというふうにちょっと感じています。女性の相談だとやっぱり出会い系アプリで思いもよらないことが起こってしまって、それで心配になって検査を受けたっていう方も何件か対応していますので、そういう希薄な人間関係の中での行為が不安になるっていう若年層も一定数いて、そうすると SNS で流れてきたものに触れてっていうところは繋がっていくのかなというふうに今ちょっと思いました。 そのあたりを PTA の方とか、高校のところの教育現場にいらっしゃる方もいるので今日はちょっとお伝えしたいなと思ってます。お隣に道新の方がいらっしゃるの、梅毒検査のことはぜひ広報をしていただきたいなと思っているんですが、新聞を見ると、高齢の方はちょっと増えるような印象があります。なので、紙媒体もとても大事にできたらなと思っているのでご協力をよろしくお願いいたします。
(遠藤会長)	はい、いかがでしょうか。

(満島委員)	今年度の計画自体には賛成っていうところなんですけど、こうしていただけたらというふうに思っていたことがあったのを伝えるのを忘れておりました。 今あまり HIV に関しては世界情勢的にも色々な懸念といいますか、渦巻いているところがあると思います。特に米国との関係で例えば PEPFAR（米国大統領エイズ救済緊急計画）の凍結などがあると思うんですが、これについて日本ですとエイズ啓発予防ネットの API ネットですとか、日本 WHO 協会などではその HIV に関する国際的な状況についてっていう新着情報などを流しているわけなんですけれども、地方自治体単位でも少し記載の方が必要なのではないかなというふうに思っております。札幌市のホームページなどを拝見しますと、世界とエイズおよび HIV の項目もあって、そこに何がしか一言、その現在の社会情勢に関する情報発信というところがあると、より良いのかなと。やはりホームページでリーチしている方がまだ 46%もいるっていうふうになりますとチェックされる方は多いと思いますし、HIV の陽性者の方で様々な SNS など、どっちかって言うとネガティブなニュースを目にして、メンタル的な部分で様々な事を抱える人も多くなってきているなというふうに痛感しておりますので、ぜひそういった部分ご検討いただければというふうに思った次第です。はい、以上です。
(遠藤会長)	ありがとうございます。非常に貴重なご意見かと思えます。 他、池田委員お願いします。
(池田詩子委員)	札幌市の取り組みとかとはちょっと違うんですけど、厚労省の PrEP 研究班の方からちょっとお声がかかっておりまして。PrEP の利用促進を目的とした取り組みで PrEP 政策研究っていうのを、おそらく 4 月から行う予定になりそうな感じで、ツルバダの正規品の使用期限が比較的短いものを、あまり深くは言えないんですけど、無償で提供するようなことを札幌市内のうちと池田先生のところと、あと札幌中央病院の泌尿器科の先生が、PrEP の検査をしてもらいながらっていうのをやる予定です。今こうなっておりますので詳細が決まったらちょっとまた皆様に広報って言ったら変ですけど、色々なところにリーチするような形でお知らせいただきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。
(遠藤会長)	はいありがとうございます。 PrEP っていうのは馴染みのない方もいらっしゃると思いますので。曝露前予防内服という、リスクの高い行動が多い人はあらかじめ抗 HIV 薬を、飲み方も色々あるんですけど、毎日飲んで感染を予防するというやり方が今増えていて。世界的にはもうかなり以前から行われていることなんですけども、ようやく今年度ですね、昨年 8 月に日本でも承認をされた、保険で通ったというよりも薬事承認が下りたということで、今後日本でも広がっていくだろうというところなんですけども。非常に抗 HIV 薬は薬価が高いので、それをどうやって解決していこうかということで研究班などを立ち上げて、それに両池

(沼田委員)	田先生が参加するという事で、ぜひ池田先生からおっしゃったようなことで、広報という形になるかわかりませんが、知っておいていただきたいと思います。 他にいかがでしょうか。沼田委員お願いします。 事務局の方にお願ひがあります。令和4年度までこの会議の資料のデータテーブルがあり、数値が掲載されていましたが、昨年度からなくなり、口頭でお伝えいただいていたところですが、メモを取り切れないときもあるかと思ひますので、できればデータテーブルか各数値をまた復活させて頂けたら嬉しいなと思ひます。
(遠藤会長) (大市保健師)	はいお願いします。 年数が長くなって数字が載せきれなくなったとともに、令和5年度から削除させていただいていたんですが、掲載方法を検討したいと思ひます。
(遠藤会長) (笠間委員)	よろしくお願いします。他、いかがでしょうか。 アンケートであるとか検査件数の集計とかがどうしても10代とか20代という区分けになってしまうんですが、先ほど大学生だと18歳から22歳ぐらいまでに渡っている、高校卒業から4年ぐらいの間といえは社会人といふか高校卒業後のライフステージ一個目っていうところだと思うので、そういった10歳代20歳代って分けてしまうとそういったところの実態とちょっと離れてしまう、10歳代に中学生なのか高校生なのか大学生なのかっていうのでも結構変わってくるなと思ひていて、場合によってはこの集計の仕方っていうのも考えていただけると、もうちょっと危機感といふかそういったものが出てくるかなとご提案です。
(遠藤会長) (古澤結核・感染症医事担当課長)	ぜひご検討いただきたいと思います。 はい、他はよろしいでしょうか。 今、笠間さんの方からご発言ありましたが、札幌市の検査の中で10代の方も稀に受検されるんですけども、保護者の方と一緒に受検されるパターンも結構ありまして。そういった意味では親御さん世代にしっかりと知識を身につけていただくということも非常に重要というふうに考えておりまして、昨年度今年度とPTA協議会の方でお話をさせていただいて、PTAの方々についてやはり性感染症という単独だとなかなか自分事として捉えづらいというところもあるかと思ひまして、母子保健の方ともちょっと協力をさせていただいて若年妊娠ですとか、そういった性教育、広く性教育というところも踏まえてのお話で啓発活動をさせていただいたというところになりますので、若い世代について親御さんも含めて、啓発は大事ななという風に考えております。
(遠藤会長)	よろしかったでしょうか。それではこれで本日の議題を終了させていただきます。委員の皆様には所属されてる職場または団体等を通じまして積極的なエイズのまん延防止に向けた啓発活動をお願いしたいと思います。

⑨ 議事終了 （古澤結核・感染症医事担当課長）	本日は少し時間を押してしまいましたけど非常に皆様活発なご討議いただきまして非常に有意義な会となったと思っております。ご協力ありがとうございました。 それではここからの進行は事務局の方にお戻したいと思います。 遠藤会長、議事の進行どうもありがとうございました。委員の皆様、ご審議ありがとうございました。では、閉会の挨拶に移りたいと思います。札幌市保健福祉局保健所感染症担当部長の前木よりご挨拶を申し上げたいと思います。
⑩ 閉会挨拶 （前木感染症担当部長）	感染症担当部長の前木でございます。 本日はお忙しい中お集まりいただき、また HIV 感染症および梅毒について活発にご討議くださりまして、ありがとうございました。 本日議論していただきましたことで、本日ご参加いただいた皆様におかれましては、エイズおよび梅毒についての知識が深まり、大変実りの多い会だったと存じます。 今年はまだ2月に入ったところですが、今までのところ HIV 感染症および梅毒患者数の報告件数については、昨年と同じ時期と同程度の患者数が報告されておりますので、引き続き HIV 感染症および梅毒について対策を行うということは重要と考えております。 対策を行うにあたりましては、我々保健所と本日ご参加いただいた皆様と、協力して取り組むということが重要と考えておりますので今年度末、そして来年度に向けても引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。 以上をもちまして私からの挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。
⑪ 閉会 （古澤結核・感染症医事担当課長）	次回の協議会につきましては来年の2月頃の開催を予定しております。令和7年度につきましても、本市のエイズ対策にお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。 以上をもちまして、札幌市エイズ対策推進協議会を終了したいと思います。本日はご出席いただきまして誠にありがとうございました。